

心の果て No.35

(2012/ 3 ~ 4)

p 01~01	退院ご挨拶	p 03~03	自然と健康に感謝
p 01~02	生きてる喜び	p 03~04	未来を担う子ども達
p 02~02	健康の喜び	p 04~04	限界を設けてはならない
p 02~03	町の全体で子育てを	p 04~04	活動の場に感謝
p 03~03	春の彩り		

2012.03.04

・退院ご挨拶

多くの方々から、お見舞いのメールやお手紙を頂戴いたしました。身体障害 1 級を頂き帰宅いたしました。御礼をと思いますがご住所を存じあげない方々には本ページで失礼ですが、御礼のご挨拶とさせていただきます。◆梅の香りに誘われてメジロの番いが飛び交う季節となりました。皆様にはお変わりもなくお過ごしのことと存じます。私、昨年 7 月より体調をくずし原因が判らないままいつ倒れるかと不安な毎日を過ごしておりました。2 月 11 日に再び発作が起き、枚方公済病院に緊急入院いたしました。その結果「完全房室ブロック」と診断され、ペースメーカー植え込み手術を受け、お陰さまで順調に回復いたし 2 月 29 日にはめでたく退院の運びとなりました。◆これも偏に皆様から頂きました励ましの賜物と深く感謝いたしております。いろいろとご心配をお掛けいたし、本来ならお膝元に参り御礼申し上げるべきでは御座いますが、普段の体調に戻りますまで、しばらく外出を控えさせていただきたく存じ、取り急ぎ書中を以て御礼申し上げますと共に、今後とも宜しくご交誼を賜りますようお願い申し上げます。まだまだ冷え込む日が続きます、どうぞ御身御自愛の程お祈り申し上げます。

・・・ <一筆啓上仕り候> ・・・

2012.03.11

・生きてる喜び

家内が心拍数 20 以下となり救急入院したのが先月の 11 日。早 1 ヶ月が経過し今は体内に植え込んだ機器の助けによって高齢の生命 i 維持と体力回復に努めております。医学の進歩によって健康で人生を楽しめるとは、何て素晴らしいことではないでしょうか。妻いわく、人には天命がある、齢 70 が天命なればそれも由だ、しかし文明の世にあって「もっと世の中に貢献せよ」という事と

捉え世の為人の為にも、周囲を明るく・楽しく・愉快的輪を広げたい。我が家庭は明るく・笑顔でがモットー。ハグあり・頬付けあり・愛してるヨ！の言葉・・若者に劣らないアクションは高齢になればなるほど必要ではないのだろうか。さあ～元気を出して“笑おう・叫ぼう”生きているんだ・・・・・・・・。

2012.03.18

・健康の喜び

毎朝夕に愛犬の散歩に「恐山」も軽い運動を目的に 8,000 歩を同伴している。吾輩は介助で愛犬のリードや排泄物の処理は勿論介助者の役目だ。一般的に夫婦での散歩は亭主がリードを持ち排泄物はご婦人が担当の様だが、吾輩は率先垂範で全てを担当。他人様はやさしい旦那と見えるのだろうが、外面の良いのが私だ。◆励ましは、人に“希望の花“を咲かせる。人は皆、希望の種を持っている。相手に状況、おかれた環境を踏まえながら、それをどう芽吹かせ、育むかは自身の慈愛の心の深さが物語る。・・・・・・「自分には、こんなに思ってくれる人がいる！」その心が、どれだけ励みになるかは、苦難に立った時に初めて知ることだが、常に対人関係に限らず野の草木や野鳥など自然界からの恩恵も忘れてはならない。◆この度の恐山の急病に多くの人から励ましをいただき、里山で鶯のさえずり、庭に飛来するメジロやクリスマスローズの開花に心が和らぎ、健康の有難さを感謝する日々である。◆健康な日常生活に戻り、地域活動にも全力投球したい。早速、老人会の映画上映に必要な機器の整備に取り掛かる。何故、高額な個人負担で展開するのか！と問われるが、「一人でも多く屋外に出て楽しんで戴こう」これが私の楽しみでもあり、遊び感覚には金銭も必要であり、我に楽しみを与えて頂けること自体に感謝する。

2012.03.25

・町の全体で子育てを

地域の小学校卒業式に老人会長として参列しました。3クラス 男子62名 女子52名で計114名であった。我が時代は身長5尺3寸甲種合格が誉れの時代に比べ、6年生の身長で167cmを優に超す子供のいるのに驚きだ。生活様式も変り当然食生活も違う。芋の蔓・南京・団子汁・お粥などで米穀など三度の食卓には上らない。育ち盛りの自分には空腹の日々であったことを今も鮮明に覚えている、母親は子供に与えて空腹に耐えていたと思うと、驕から近所の互助精神の教えまで、親の恩は忘れてはならない。◆卒業生の名前に驚く、女子52名の内で末尾に（子）と付くのは僅から5名である。またフリ仮名が必要な呼び名も多い、名は体を表すように子に託す親の願いか込められており、将来への夢を持ち目標に向かって羽ばたく子供たちの将来が楽しみである。◆そこで私たち大人は「子どもは親や大人の言うことを聞くのが当たり前」と、いつしか傲慢になり、子を思うあまり口うるさくなってまいいか。そんな自分を猛省。気付くと、いつしか少しずつ子どもと自然な会話ができるものだろう。「人の両親ほど最も自然にして最も好適な教育者はいない」とドイツの教育者ヘルバルトの言葉にある。学校教育が重要であると共に、家庭や子供たちを見つめる近隣の人々の子を愛する姿勢も重要である。

2012.04.01

・春の彩り

四月は卯の花が咲くとき「卯月」花の四月ともいわれ、桜をはじめ草木の花がいっせいに咲きそろ、春風駘蕩、春爛漫、春陽麗和と、その香しい中を入学式に親子の笑顔で晴れやかな姿が間もなく見られます、それも四月の彩りです。◆夏に大輪を付ける向日葵も今は小さな若葉、静かに成長の歩みを進めています。我が家の坪庭では一年中で最も美しい季節に入りつつあります。クリスマスローズが咲き乱れ、今年の開花は少々遅れましたが椿の種類も豊富で庭を彩り、老木の花桃の木も開花へと頑張っています。人も植物も若い芽を大切に育てたい。「頑張れ」

2012.04.08

・自然と健康に感謝

三寒四温、今年の桜の開花は少々遅いがその分長く楽しめそうだ。毎朝、雀が家人の起床を待ちわびている。室内に人影が写ると、2羽ほどが小枝をゆするが如く飛び跳ねる。米を一握りを与えると、途端に居なくなる数分後に10羽ほどが集まり集団で啄ばむ、一族を呼びに行ったのだ。繁殖期には子雀の鳴く声も混じり「欣喜雀躍」の四文字熟語の情景が伺える。◆椿の花に蜜を求めて「メジロ」がやってくる。器に蜂蜜をいれ与え、飲む姿が可愛い。野鳥に人工的に餌などを与えてはいけないと人は言うが、庭に小鳥が飛び交う様を見ていると心がなごむ。◆余暇は海外・国内旅行や外食に多額を費やすことなく、自然が身近な環境から無くなりつつある中であって、訪れる小鳥や夏のアマガエルや蟬などの小動物のさえずりや鳴き声に、目を閉じ耳を傾け読書に

親しむ、これに優る贅沢はない。「花は半開を看、酒は微酔に飲む」と満ち足りた境遇を私は望まない。◆この度の妻の病いで家族が健康であることの有難さを痛感した。まして互助制度である健康保険の重要性も、健康時なれば保険料が高いとか、年金で有無も言わず徴収されること

の不満もあった。「子を養いて方^{はし}めて父母の恩を知る」が如しである。◆高齢であろうが、大いに就労し少しでも多く納税できることが、健康と社会に貢献できる事と心新たにしてみたい。

2012.04.15

・未来を担う子ども達

毎朝、新入学の小学生が「お早うございます」と挨拶をしてくれる。何と良い響きでは有りませんか。桜花爛漫、空は日本晴れ、心が颯われ清々しい気持が全身を覆います。子どもの豊かな心の泉は、親の深い理解と愛情という滋養から湧き出ます。子供を慈しむ大人との触れ合い、愛情あふれる先生、周囲の豊かな眼差しに包まれてこそ、創造性や思いやりの心も大きく膨らむでしょう。社会の未来は現在の子どもにあります。子供たちを豊かに育むことのできる社会には発展性や希望がありましょう。世情不安定な現在ではありますが、烈日の躍動する季節に向い、周囲の子供を育て、

慈しみのある地域の私たちでありたい。

◆毎月第2土曜日に老人会の行事として映画上映会をしており、まだ回数は浅いが徐々に鑑賞する人も増えつつある。高齢者が映画館に足を運ぶ機会も無く、一人でテレビの前で笑っているのは寂しいものである。外出して交流の機会を増やすことで、明るく健康促進に役立つであろう。「喜怒哀楽の喜・楽は人に話すことで大きく膨らみ、怒・哀は人に話すことで小さく萎む」◆映画上映のハード面は私が提供しているが、高額な機材を個人提供するのは、老人会には資金も無く如何にすれば健康の喜びを味わう事が出来るのだろうか。これが老人会役員の活動テーマであることと、皆さんの楽しむ姿に喜びを感じるからである。自分一人では生きていけない、地域の支えがあってこそ今の自分がある。このことを忘れることなく歩んでいきたい。

2012.04.22

・ 限界を設けてはならない

「朋有り遠方より来る、亦た楽しからずや」学友が夫婦して東京から妻の病気見舞いに訪れた。病の不安定な体調の中で励ましの言葉は何ものにも代えがたい力を与えてくれる。◆励ましとは、相手に“希望の花“を咲かせることだ。人は皆、希望の種を持っている。相手の状況やおかれた環境を踏まえながら、それをどう芽吹かせ、育むか「自分には、こんなに思ってくれる人がいる！」その心が、どれだけ励みになることだろう。◆この世に生存する限り、病気はある。ぱっと無くなるわけではない。でも病気ごときに、「わが人生を邪魔されてたまるか。病よ、そこどけ！邪魔するな！って心で怒鳴ってやる気概が大事だ。◆ペースメーカを植え込む手術は現在簡単に捉えられているが、心臓に異常が現れない限り判断が難しいようで遅れば脳障害になりかねない。そして10年後には機器の交換が必要だが、妻いわく交換時点で認知症になっていたら交換不要にしてヨ〜と。家族への配慮だろうが◆「限界」を自分の心の中に作った瞬間に、自分の成長は止まる。どんな状況であろうと、常に挑戦し続ける心、向上しようとする姿勢が「不老長寿」への道であり薬だ。

2012.04.29

・ 活動の場に感謝

民生児童委員総会の場で「奥さんのご加減は」とお見舞いの言葉を数人の方から戴いた。私のホームページを見て頂いているそうで、思わぬ方々から「夫婦揃って元気で活動して下さい」との激励に、地域社会への貢献は自分の成長と捉えよ、と恩師の教えを思い起こす好日でした。◆老人会においては齢73などはまだまだ若輩であり、活動の場を戴けることに感謝したい。座して運命の成り行きに従うより、活動して運命を切り開き積極的に前進すれば、狭い道も拡がり有意義な人生となりましょう。◆人生には「定年」も「引退」も有りません、どうせ生きるならば、誰かの心に「あの人の生きたように」と輝きのある人生でありたい。

2012.03.~2012.04

END